

もしも、のために知っていただきたいこと

- 定期的予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
- 制度の利用を申しこむときは、お住まいの市町村にご相談ください(制度を利用するためには、一定の条件があります)。

※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。



Hib
ワクチンのはなし

シリーズ の ご紹介

このリーフレットは、法律ですすめられている定期接種のうちHibワクチンを「きょう」接種するお子さんと、その保護者のみなさまのために、かならず知っておいていただきたい内容をまとめたものです。そのほかの定期接種についてまとめたシリーズと、あわせてお読みください。



小児の肺炎球菌
ワクチンのはなし



DPT-IPV
ワクチンのはなし



BCG
ワクチンのはなし



MR
ワクチンのはなし



日本脳炎
ワクチンのはなし

各リーフレットは、厚生労働省HPおよび予防接種リサーチセンター HPからダウンロードできます。「予防接種 リーフレット」で検索できます。

くわしくは
「予防接種と子どもの健康」
(発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらん
ください。



医療機関名

きょう

きょう 予防接種をうける
お子さんと、保護者のみなさまへ

Hib(ヒブ)ワクチンのはなし



#01

ノ ワ ク チ ン

きょうの予防接種を安心してうけていただくために

#01 Hibワクチンのはなし

ワクチンで防げる病気もあるんだ!



Hibワクチンって?

- ◆Hibとはインフルエンザ菌b型のもので、口や鼻などから吸いこむことで感染します。毎年冬に流行するインフルエンザのウイルスと名前がにているが、まったく別ものです。
 - ◆Hibに感染すると肺炎、細菌性髄膜炎¹⁾、菌血症²⁾、喉頭蓋炎³⁾などになってしまいます。
 - ◆Hibワクチンを接種することで、体のなかにHibへの抵抗力(免疫)ができます。
 - ◆免疫をつけることで、まわりの人たちに広がるのをふせぐことができます。
 - ◆このワクチンは生後2カ月になってから接種し始めます。
- 1)細菌性髄膜炎：鼻やのどにいる菌が血液に入り、脳を包んでいる膜に炎症をおこす重い病気です。耳が聞こえにくくなったり、手足が動きにくくなったりといった障害が残ったり、命にかかわることもあります。
 - 2)菌血症：細菌が血液のなかに入って高熱がでたりします。
 - 3)喉頭蓋炎：のどの奥がはれてしまう病気です。空気の通り道がふさがり、息ができなくなってしまうこともあります。

○予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。でも予防接種をうけておくと、たとえかかっても、その多くは軽くてすみます。

- 小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。
- 注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。



3

接種後の注意

- 接種直後、30分くらいはすぐ対応してもらえるように、医療機関のなかでお子さんの様子を見てあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。この間に急な体の変化がおこることがあります。
- 帰宅後もはげしく体を動かすことはさげさせ、接種箇所をきれいに保ってあげましょう。
- お風呂には入れてもかまいませんが、接種箇所をこすらないでください。

予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にとっておきましょう。

2

ワクチンを接種するときのポイント

1

当日はココをチェック

- お子さんの体調はよいか、熱があったり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておくとうえやすくなります。
- 母子健康手帳はかならずもっていきましょう。



おこるかもしれない体の変化(副反応)

- ◆Hibワクチンを接種した後、接種箇所が赤くなったり、はれたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
 - ◆ごきげんが悪くなったり、ものを食べたくなくなったり、熱がでたりすることがあります。
 - ◆きわめてまれにアナフィラキシー⁴⁾、けいれん、血小板減少性紫斑病⁵⁾などの重い病気にかかることがあるともいわれています。
- 4)アナフィラキシー：急激なアレルギーにより、じんましんができたり呼吸が苦しくなったりします。
 - 5)血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働き血小板の数が少なくなって、出血しやすくなってしまいます。皮膚の下で出血して青あざができたり、歯ぐきから血がでたりします。

○予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。

